

でトラブル発生。出陣帰還の早い遅いで繰り上げ卒業、留年する者の開きが発生、大混乱となった。そして他方では学校武道の廃止問題である。特攻精神、玉碎精神は全て学校武道の教育に端を発するものとされ、アメリカの占領政策として、剣道、柔道が廃止されるに至ったのである。中学、大学と一貫して剣道に取り組んできた私共剣道部員は途方に暮れた。これも戦争体験の一つである。

年が改まると戦後五十年の大きな節目を迎える。戦争は二度と再び起こしてはならない。この面から戦争体験記が募集された。大いに結構である。しかしその前に、この戦いの真の姿を正しく認識し、正しく後世に伝えて行かなければならぬ。

一九九四年（平6）十二月

一九二四年（大13）生満七十歳

